

みなさん、こんばんは。〇〇です。

今は真夜中の午前2時。藤城小学校にお邪魔してから、そろそろ1か月がたちます。始業式の日、あのように急な僕のおしゃべりを聞いてくれたみなさんには、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとう。みなさんから送られてきた一言メッセージには、僕自身、大きな勇気をもらいました。実は、あのとき話したスーパーマーケットの社長さんに、思い切ってみなさんからのメッセージを届けたんだ。社長さん、長い時間をかけて一枚一枚、うんうん、と頷きながら、時折、目頭も押さえながら読みふけていた。

先日、社長さんから、「〇〇さん、この小学校の子どもたちに、ぜひ伝えてもらいたい!」と、こんな手紙を託されたんだ。

京都の藤城小学校のみなさん。不思議なご縁から、私へのメッセージを受け取りました。ありがとうございます。この1か月あまりの間、私は、自分の店から最初の感染者を出してしまった後悔と、この先、感染が拡がりはしまいかという不安、そして何よりも、人の目が私を責めているように感じられ、心安まることはありませんでした。

そんなとき、〇〇さんからいただいたみなさんのメッセージ。そこには「謝らなくていい」とか、「やるべきことをやっていたので、それでいい。感染はどこにでもあることだ」、「悪いのはウイルスであって、社長さんじゃない」などの言葉があふれていました。私は胸がいっぱいになり、みなさんの文字は涙でかすみました。顔も知らない、遠い京都の、まだ小さい人たちが、真剣に私に言葉を書いて送ってくれた。そのことが嬉しくてうれしくて…。そんな中、はっとさせられたものがありました。「大切なことは人に謝ることではないよ」というメッセージ。この言葉のおかげで、私の心の霧は晴れました。よし!私がやるべきことは、今まで通り感染防止対策を黙々とやり続けること。そして、笑顔でお客様や従業員に接すること、人間関係を大切にしていくことだ、と。

「大切なことは人に謝ることではないよ」という言葉は、ずっと部屋の壁に貼っています。そして、400枚を超えるみなさんからのメッセージも大切に机の引き出しにしまっています。

藤城小学校のみなさん、ほんとうにありがとう。ありがとうございました。みなさんのメッセージをいただいてからは、毎日、笑顔でお店に出て頑張ることができています。地域に根ざした、地域のみなさんが笑顔で買い物ができるお店。人と人がつながり合う地域。そんな見失いかけていた私の夢を、もう一度取り戻すことができました。どうしても一言お礼の気持ちを伝えたくて、この手紙を〇〇さんに託します。みなさんも、自分の夢をあきらめず、前に進んでください。

というお手紙です。なんだか僕も力がわいてきたなあ。よし、ラジオの仕事、頑張ります! みなさんも、こんな自分になりたいという夢をあきらめない藤城小学校での生活を送ってくださいね。さようなら。また会いましょう。